

精神・神経疾患における病態形成の共通メカニズム ～レトロトランスポゾンの関与と治療への応用～

日時

2026年7月14日（火） 14:00～15:00

開催形式

Zoomウェビナー

(聴講登録頂いた方にURLをセミナー前日までにメールでお知らせします)

聴講登録

<https://forms.gle/arSC39tBCYePshxH9>

登録〆切：2026年7月13日（月）12:00



講演

精神・神経疾患における病態形成の共通メカニズム ～レトロトランスポゾンの関与と治療への応用～

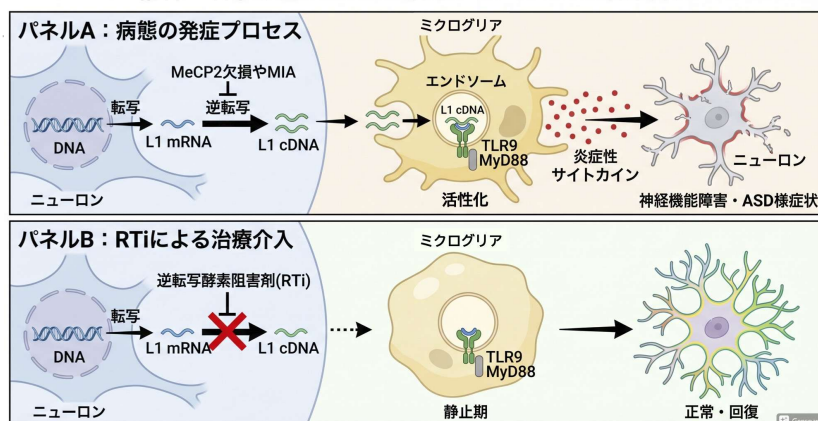


中島 欽一

九州大学 大学院医学研究院
応用幹細胞医科学部門 基盤幹細胞学分野
教授

レット症候群やASD等の神経発達障害では、ニューロン機能障害とミクログリア活性化が共通して見られる。本研究は、MeCP2欠損および母体免疫活性化（MIA）によるASDモデルを用い「L1 cDNA-TLR9-ミクログリア軸」の病態への関与を検証した。結果、TLR9シグナル抑制や逆転写酵素阻害剤の投与により、両モデルでミクログリア活性化や行動異常が有意に改善した。本経路は有望な治療標的になり得る。

精神・神経疾患における病態メカニズムと治療介入



クロストーク & QA

「基礎研究者が事業を意識した研究へ方向転換する時に直面する“壁”をどう乗り越えたらよいか？」

中島 欽一

九州大学 大学院医学研究院 応用幹細胞医科学部門 基盤幹細胞学分野 教授

松岡 信也

京都大学「医学領域」産学連携推進機構 特任教授

鈴木 忍

京都大学「医学領域」産学連携推進機構・成長戦略本部 特定教授